

ぶらっとサロン椿通信 令和 3 年 6 月号

今号の椿：京都古刹の五色散椿の挿し木(自然実生苗?)から四半世紀を経て咲いた椿花

(枝変わり新種?)R3.4.11 撮影(朝日 2 丁目 T 邸所蔵品種)



報告:有楽齋

毎週火曜日の午後 1 時過ぎから午後 4 時半ごろまで、朝日 2 丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、昨年 3 月 10 日から自粛し**現在休局中**です。

本年発行よりタイトルに『椿』を加えました(有楽齋)

【白玉椿伝説と椿の花】

平岡八幡宮の縁起によれば、故事に『願い事をすると、白玉椿(白い花の椿)が一夜で花開き、願いが成就した』という記述があり、ここから白玉椿伝説が伝わっている。社務所横には、およそ樹齢 200 年に近い一水椿とも呼ばれる白玉椿の古木が花を咲かせています。

→ 駐車場から本殿を望む



平岡八幡宮(京都市右京区)の固有種

【一水】(白)

と

平岡八幡藪椿(赤)



■椿にまつわる伝承あれこれ(平岡八幡宮縁起パンフレットによる)

①古くは日本書記にみられるように、景行天皇(伝承上の天皇)が土蜘蛛征伐に賊を追うのに使われたことから、悪者を払う性格が込められたものとされた。②平安時代には、長寿・招福・吉兆の木として愛され、白玉椿は茶道において茶花として相応しい花とされている。③源氏や足利・上杉・織田・豊臣等の戦国武将が賞用し、徳川家では江戸鎮護の花木とされた。

→ 格天井に描かれた四季折々の花の絵



平岡八幡宮の「花の天井」は毎年春、秋の年二回に特別公開され、天井に描かれた極彩色の四季折々の美しい花絵をゆっくりと観賞することができます。

境内と社務所の庭に 200 種 300 本の椿が植えられ「春の小径」では白やピンク、まだら模様など様々な色や形の椿を咲かせます。



「椿寺」として有名ですが、正式には「**混陽山地蔵院**」という浄土宗のお寺です。神亀 3 年(726 年)に摂津国伊丹の昆陽野池のほとりに行基(ぎょうき)により建立されたのがはじまりとされています。その後、京の衣笠の地に移されましたが、天正 17 年(1589 年)に豊臣秀吉により現在地に移りました。

「**五色八重散椿**」は、加藤清正が朝鮮出兵の際に持ち帰り、豊臣秀吉に献上したもので、初代は残念ながら 1983 年に枯れてしまいました。現在の散り椿は二代目で、樹齢は 120 年。散り椿は花が落ちず、花びらが一枚ずつ落ちる事が特徴です。



散り椿の特徴とされるように、花びらが 1 枚ずつ落ちていきます



↓参考：法然院の五色散椿



「地藏院の散り椿」 本堂前には「五色八重散椿」の立て札が 平岡八幡宮、地藏院とも、無料で自由に見ることが出来ます。

ぶらっとサロン椿通信は創刊以来月 2 回発行してきましたが 7 月より月 1 回 20 日発行と致します。(有楽齋)